



No.112
2001-8-6

日本教育工学会ニューズレター

Japan Society for Educational Technology

事務局:〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5 森ビル(視聴覚ビル) 2階
電話/FAX:03-5251-2133 e-mail:jet-office@japet.or.jp
日本教育工学会ホームページ http://www.japet.or.jp/jet/

ISSN 1340-9913

論文誌特集号「教育実践研究とその方法論」のご案内(第1報)

「総合的な学習の時間」や教科「情報」を含み、実施に向けてさまざまな検討や準備がなされている新学習指導要領が、いよいよ2002年(小・中学校)と2003年(高等学校)から完全実施されます。この学習指導要領による新たな教育実践についても、さまざまな手法を用いた実践研究による多様な検討が求められます。

ところで、教育工学研究は、本来、純粋に学問的な成果への貢献だけではなく、教育実践に貢献することも、その重要な課題としてきました。むしろ教育工学研究の存在意義は、その両面性にあると言っても過言ではありません。ただし、後者の教育実践への貢献は、これまで主として教育実践の方法の研究による、実践への支援にとどまっていた。

しかし教育工学研究が、真に教育実践に資する研究となるためには、教育実践方法の研究による教育実践への支援にとどまることなく、教育実践研究の方法の開発によって、教育実践研究を支援すること、あるいは展開することが必要です。すなわち、研究をともなう実践、あるいは実践をともなう研究を、実践としてだけでなく、研究として成立させるための、多様な研究方法を確立する必要があります。そしてそのことはまた、実験室をベースとするような伝統的な教育工学研究の知見の、教育実践の場での現実的な有効性を検証するためにも、重要なことであるはず

本号目次

特集号論文募集-----	1-2	論文誌へご投稿を!-----	8
研究会の案内(8/25)-----	3	理事の担当表-----	9
研究会の発表募集(11/3)-----	4	委員会名簿-----	10
研究会の今後の予定-----	5	第9期第1回理事会議事録-----	11
夏のセミナー案内-----	6-7	新入会員/学会日誌等-----	12
秋の産学協同セミナー案内-----	7		

これまでも、教育工学の研究方法論については、大会の課題研究、シンポジウムなどを通して、継続して議論してきました。その成果として、上述のような接続を可能にする新しい研究アプローチも、学会の中に盛り上がりつつあります。

そこで、これまでのそのような議論の総括と、新たな研究方法論の提案を目的とし、加えて、教育実践への教育工学の多様な貢献のあり方を探ることを目的として、研究方法論をテーマとする論文誌特集号を企画し、下記分野における教育研究や実践研究に関する論文を広く募集することになりました。この分野に関心のある学会員の皆様、ふるって投稿くださるよう、お願いいたします。

1．対象分野：

新教育課程に対応する教育実践研究、高等教育における実践とその研究、情報メディアやネットワークを効果的に利用する教育実践とその研究、教育実践研究における研究方法論、新たなパラダイムによる教育研究方法論、教育実践における評価法、教育実践とその研究を支援するシステム開発、教員のための教育実践研究方法論、その他の教育実践や研究方法論に関連する内容。

2．募集論文の種類：

通常の論文誌と同様に、「論文」、「資料」、「研究速報」を募集します。投稿規定並びに査読は通常の論文と同様です。今回の特集号では、特に優れた新規性が認められる研究速報を積極的に募集いたします。

なお、ショートレターとして既に掲載されている内容を、発展させて特集号論文として投稿することも可能です。

3．論文投稿締切日： 2002年2月1日（2002年12月発刊予定）

4．論文送付先： 日本教育工学会論文誌編集委員会事務局

5．問い合わせ先： 同上

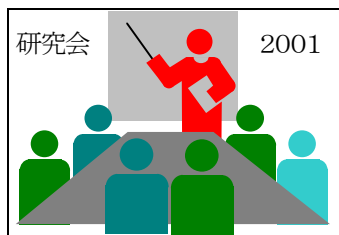
教育工学事典 好評発売中！

教育工学事典は会員の必読書です。会員に対する割引の特典もありますので、まだ購入していない会員は是非お求め下さい。

定価： 12,600円（税込み、送料別）

会員： 10,000円（税込み、送料込み）

ただし、会員割引は会員から学会事務局へ郵便振替で10,000円を送金された場合に限ります。請求書による後払いの場合は、近くの書店あるいは出版社に定価で注文して下さい。



研究会の開催

ITを利用した教育実践と教員教育

日時：2001年8月25日(土)

場所：東京学芸大学(〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1)
N棟 313教室 (3階北東角)

担当：任都栗 新(東京学芸大学 留学生センター)

研究会への参加は、当日受付にて同研究会の報告集(1000円)をご購入いただければ、一般の方でも可能です。

9:45 受付開始

プログラム：

発表時間：発表1件につき、20分(発表15分、質疑5分)の持ち時間です。

10:15~11:50 -----

- (1) 「我が国の通信制大学院学生の平成12年度生活実態調査」
三尾忠男(早稲田大学)、鈴木克夫((財)私立大学通信教育協会)、山地弘起・波多野和彦(メディア教育開発センター)、大塚雄作(大学評価・学位授与機構)
- (2) 「二重課題による負荷が瞬目活動および精神テンポに及ぼす影響 - 感覚モダリティーと瞬目活動 - 」
小孫康平(関西国際大学人間学部)、田多英興(東北学院大学教養学部)
- (3) 「文系研究者の研究公開を支援するパーソナルサーバーの研究」
金子顕也(豊無線(株))
- (4) The development of hypermedia language learning system for teaching academic English
Jin Chen・Toshio Okamoto(Graduate School of Information Systems, The University of Electro-Communications)
討論 約15分(既発表ならびに研究会テーマについて総合討論) -

11:50~13:00 ----- 昼食 -----

13:00~14:35 -----

- (5) 「情報教養「作図等の表現スキル」のコース開発と評価」
北垣郁雄(広島大学)
- (6) 「ITを利用した学習不振者に対するストラテジー教育」
楊 峻(東京学芸大学院)、任都栗 新(東京学芸大学)
- (7) 「国語教育にITを用いることによる可能性」
桜井芳雄(府中市立府中第二中学校)
- (8) 「プレゼンテーションソフトを使った調べ学習：小学校での実践」
原 香織(北区立十条小学校)
討論 - 約15分(既発表ならびに関連事項について総合討論) -

14:35~14:45 ----- 休憩 -----

14:45~16:00

- (9) 「きりはり教室」開発のコンセプトと教育現場の反応」
鈴鹿豊昭(日立ソフトウェアエンジニアリング(株))
- (10) 「ITを利用することによる評価方法のシステム化」
加納寛子(岐阜女子高等学校)
- (11) 「NTTコミュニケーションズとの共同研究」
東京学芸大学スクール02プロジェクト
討論 - 約15分(既発表ならびに関連事項について総合討論) -

16:05 閉会 -----

会場へのアクセス

中央線 武蔵小金井駅から京王帝都バス(小平団地行)で学芸大正門下車(バス10分)

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~kouhou/add/koganei.html>

あるいは

中央線 国分寺駅より徒歩25分

<http://isec.u-gakugei.ac.jp/koutsuu/eki.html>



研究会の発表募集

ITと国際協力



日時：2001年11月3日(土)
会場：琉球大学
開催担当：徳村朝昭(日本国際協力センター沖縄支所)

アクセス：空港よりバスで40～50分
<http://www.u-ryukyu.ac.jp/> の地図と交通

原稿提出：2001年10月9日(火)必着。
原稿提出のない場合、発表取消とします。

応募：発表申込書を郵送またはファクシミリで、もしくは同じ内容を電子メールで研究会事務局宛にお送りください。

募集内容：昨年の沖縄サミット共同宣言でIT促進と開発途上国へのIT支援を打ち出して以来、インフラ整備や遠隔授業用教材開発など、国内を問わず多数のITプロジェクトが立ち上がりつつあります。情報通信関係者や教育者の皆様にはこれらのプロジェクトに何らかの関わり、あるいは、ご関心をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。今回の研究会のテーマを「ITと国際協力」とし、教育におけるITがどのように国際協力で活用されるべきか、あるいは、活用されているのか、期待される効果、予想される問題点とその対策など、ITの国際協力利用の実践報告および研究発表を募集いたします。なお、教育工学領域一般の発表も受け付けております。
注意：別刷りは廃止となりました。ご了承ください。

申し込み締切：2001年9月3日(月)到着分まで。
締切後、応募者宛に9月10日(月)に発表の採択結果を電子メールにて連絡いたします。また、採択者には執筆要項が電子メールにて送付されます。

- 1 原稿見本(原稿枚数は、発表件数で変動します)
<http://www.nime.ac.jp/EduTech/sippitsu/mihon6.PDF>
- 2 「キーワード一覧」(PDF形式)
<http://www.nime.ac.jp/EduTech/sippitsu/keyword.PDF>

発表申込書を郵送またはファクシミリで、もしくは同じ内容を電子メールで、研究会事務局宛てにお送りください。なお、研究会に関するご質問・応募は、研究会事務局までお問い合わせください。くれぐれも会場担当へは送らないでください。その場合、申し込みが受理できない場合があります。

日本教育工学研究会 発表申込書(拡大コピーして使用してください)	申込日__年__月__日
・発表希望研究会：開催月__月 テーマ_____	
・発表題目：_____	
・氏名と所属(記入例： XX(大学)、 (xxx大学)) (発表者に)：	
・発表要旨：_____	
・発表内容の領域(プログラム作成時に利用します)：テーマ・一般(いずれかに をつけてください)	
・使用希望機器：	
・執筆要項送付先 e-Mail アドレス _____	
〒 _____ 宛	
原則、電子メールならびにPDF形式で執筆要項をお送りしております。郵送希望の方はその旨、欄内にお書きください。	

研究会の今後の予定



今年度も、研究会を隔月のペースで実施しております。今年度も教育工学研究と教育現場において重要な課題をテーマに設定し、研究会を企画しております。会場では、発表者との質疑はもちろんです。同じ関心をもった研究者・教育関係者が集まっておりますので、さまざまな方と意見交換される場としても活用していただいております。会員の皆様には、教育工学領域の研究の最新情報を入手されるだけでなく、ぜひ、発表して意見を求める場として利用いただけます。テーマに即した研究発表だけでなく、教育工学領域一般の発表もおこなわれます。

8月25日(土)	研究会開催 『ITを利用した教育実践と教師教育』	東京学芸大学
11月3日(土)	研究会開催 『ITと国際協力』	琉球大学
2002年 1月26日(土)	研究会開催 『教育工学における新しい研究方法論』	名古屋大学
3月2日(土)* ¹	研究会開催 『授業研究と教育評価』	宮城教育大学

*¹ 入試日程などで変更される可能性があります。

研究会報告



7月21日(土) 最高気温が35度を超える酷暑のなか、本年度第2回研究会「新しい学習環境の展開」が開催されました。3連休の中日ではありましたが、参加者は50名を越え、100名定員の会場も熱気に包まれました。

発表件数を12件と絞り、かつ、口頭発表のみに限りましたので、時間的に余裕のあるスケジュールとなりました。各セッションごとに全体討論の時間を設けることができたのですが、気温以上にホットな議論が展開され、それでも時間が不足気味でした。発表形式も含め、研究会ならではの討論の場を作っていくことが必要だと痛感しました。最後になりましたが、場を盛り上げてくださった発表者、参加者の皆様に御礼申し上げます。

(会場担当委員：西端律子・大阪大学)

研究報告集年間購読の勧め



研究会の報告集は、会員・非会員に関係なく年間予約により購読できます。また、個人・機関のどちらでもご予約できます。予約価格：年6冊、各研究会平均15件の研究発表で、年間合計約500ページほどになります。価格は郵送料込みで¥3,500です(当日売りは割高になります)。学会事務局(研究会事務局とは異なります)までお問い合わせください。

学会本部事務局(〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル)2階
TEL/FAX: 03-5251-2133 jet-office@japet.or.jp)

研究会事務局

今年度中に研究会事務に関わる組織・運営体制が変更となります。1月研究会に関わる手続きから少しずつ新体制への移行を進めていく計画であります。研究会でのご発表を予定されている会員各位におかれましては、スケジュールなどにご注意いただきますようお願い申し上げます。

研究会プログラムのニュースレターへの掲載が、開催直前となっております。会員の皆様にはご不自由をお掛けしております。最新の研究報告を掲載するためそのようなになっております。ご理解いただきたく存じ上げます。Webホームページ

には、ニュースレターよりも早く掲載しておりますので、ご利用ください。

・日本教育工学会研究会事務局
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-12
メディア教育開発センター 研究開発部内
Facsimile 043-298-3476
e-mail: jet-branch@nime.ac.jp

お電話でのお問い合わせはご遠慮いただいております。

研究会の最新情報は、<http://www.nime.ac.jp/EduTech/>をご覧ください。

2001年度「夏のセミナー」のご案内

今年の「夏のセミナー」は、昨年の沖縄から場所を兵庫県に移し、初等教育における情報教育の実態を中心として、これからの情報教育の方向やあり方等について考えます。そこで、兵庫県氷上郡教育委員会の後援をいただき、郡内の学校の協力を得て、テレビ会議を利用した授業参観をはじめ、多くの現場の先生方にも参加していただきながら、研究者と学校との考え方のすり合わせなどできるように多くのセッションを予定しています。子ども達の実態と現場の先生方の意見や考え、そして研究者の思いができるだけ近づき、情報教育をうまく進めるためのセミナーになるように、皆さんふるってご参加ください。

1. 場 所 兵庫県氷上郡市島町

- ・学校見学：郡内小学校（数校を予定）
- ・セミナー：ライフピア市島
<http://www2.nkansai.ne.jp/ichijima/Bsisetu/Hplife.htm>
- ・宿泊：野外活動センター エルム市島
兵庫県氷上郡市島町与戸字長尾52-1

2. 日 程（予定）

9月7日（金）

- ・「小学生による遠隔共同学習」 授業参観
 - 13:30 ~ 13:50 授業内容説明会
 - 14:00 ~ 14:45 授業参観（2校 + メイン会場）
 - 15:00 ~ 16:30 意見交流会（各校とメイン会場でテレビ会議）
司会 堀田龍也（静岡大学）
- <全員メイン会場へ移動、入浴など>
- ・ナイトセッション
 - 18:00 ~ 19:30 夕食等
 - 20:00 ~ 21:30 テーマ別セッション（5テーマを予定）
 - 1. 交流学习成立の要件 堀田龍也（静岡大学）
 - 2. カリキュラムの作成 小川 亮（富山大学）
 - 3. 課題設定の方法 村川雅弘（鳴門教育大学）
 - 4. 総合的な学習の評価 木原俊行（大阪市大）
 - 5. 教科と情報教育 原 克彦（園田学園女子大）

9月8日（土）

- 9:00 ~ 10:00 テーマ別セッションの報告会(各10分)
- 10:00 ~ 12:00 研究発表会 5件 各20分
座長 小川 亮
- 12:00 ~ 13:00 昼食
- 13:00 ~ 13:40 ミニ講演会問題提起「情報教育の目指す方向」
講師 永野和男（聖心女子大）

13:40 ~ 15:00 ディスカッション「情報教育の目指す方向」

コーディネータ 山西潤一（富山大学）
パネラー 村川雅弘（鳴門教育大）
原 克彦（園田学園女子大）
木原俊行（大阪市大）
足立雅人（郡教委）

15:00 ~ 15:20 総括

3. 参加費、申し込み方法等について、前号のニューズレターNo.111をご参照下さい。
なお Web からの申し込みも可能です。
<http://www.hikamigun.kaibara.hyogo.jp/HJK/index.htm>
(氷上情報教育研究会ホームページ)

秋の産学協同セミナーのご案内（第1報）

e-learning ビジネスと教育工学

日 時 11月2日（金） 13:00 ~ 17:00
会 場 アーバンネット大手町ビル18階（定員100名）

趣旨

ネットワークを活用した e-learning が幅広い年齢層を対象として広がり始めています。資格取得や企業内教育、バーチャルユニバーシティでの利用、不登校生徒を対象としたインターネットスクールなど、米国を中心に進んでいます。一方、国内では単位取得制度の問題や、費用対効果への懸念もあり、特に B to C の領域における市場は未成熟な状況です。e-learning をビジネスの視点から見た時、重要な費用対効果を左右するものは如何に効果的な教育をシステムと運用で実現できるかであり、その実現には企業の開発力と教育工学面からの考察が必要となります。

本セミナーは e-learning をビジネス化する場合の問題点を共有し、効果的な教育手法、必要とされるコンテンツ、運用体制、システム機能等について、産学の立場から議論し、e-learning の市場を開拓していくことを目的に開催します。

内容は、この分野に実績をもつ企業家、研究者の講演と、パネルディスカッション。多くの方々の積極的な参加を期待します。

論文誌へご投稿を！

伊藤紘二

教育工学は、教育という活動をサポートするシステム（組織や制度や手順や仕掛け）をデザインする方法と、それをそのようなシステムのためのさまざまな道具立てに関する研究を行う分野であると定義してみましょう。

ところで教育とは、いろいろなグループが受け継ぎ発展させてきた文化としての知恵を、グループに新たに参入する者たちが使える能力として、継承させることをゴールとする活動と考えてよいと思います。

知恵の内容は、グループによって異なるし、従って評価の仕方と同じではないので、教育工学の研究者が対象とするシステムも道具立ても教育が行なわれるグループに応じて一般と同じではないわけです。しかし、特定の一事例にだけ適用し、ちょっとでも異なったケースに通用しないシステムや道具は、二度と使えないわけですから、開発する意味はないわけです。やはり、教育工学の発展に伴って、異なる文化をもったグループでの継承のためのゴールやシステムのデザインや道具立てに共通する方法論が結晶してくることが期待されているといっているのではないのでしょうか？

さて、全ての科学や工学と同じように、教育工学でも、研究は、事例の観察や事例への働きかけの結果や、具体的なシステムのデザインや試作について、評価と改定のサイクルをまわしながら、「このような状況でこうすればこのような結果を得る（可能性がこのくらい）」という形の仮説を形成してゆくわけですが、教育工学の分野で、人という複雑系がからんだ上述のようなゴールにかかわるこのような一般化が、一研究グループの範囲で達成可能なはずはありません。

研究グループの成果としての「仮説」を、論文として公開しましょう。研究グループの間の対話が始まり、そうすれば、仮説は、大規模な検証に掛けられ、グループ内に閉じていたときとは比較にならない発展が始まることを期待できます。むろん公開されてからそのような進展

が始まるまでに年月を要するような研究もありますが、公開されない研究は、永久に公認されない仮説のままです。

論文は、分散した研究グループの間の交流を生み出すきっかけであるべきです。終わりではなく、始まりであるべきです。

さて、すでにお知らせしたように、教育工学会第17回全国大会は、鹿児島大学にて、11月23日（金）、24日（土）と開かれます。日頃の研究の成果を、積極的にご発表下さるようお願い申し上げます。

ご発表いただいたときに、聴衆からの反応、手ごたえがあった内容は、必ず論文として、読者と対話を始める価値のあるものであるはずで、速報的にレターという形を取られれば、3週間という最短の査読期間で判定が行われます。年一回のショートレター特集（11月ごろの発行）の論文についても同様です。いわゆる論文（原著論文）であっても、投稿されてから遅くとも1ヵ月半で、第1回目の判定を行うように努力しています。

査読は、専門とする分野と視点を合わせると教育工学の全体をカバーすることができるような委員からなる論文誌編集委員会で、委員会がふさわしいと判断する担当者と（原則2名の）査読委員を決定します（月1度の委員会の合間に投稿された場合、メール委員会で決定することも行っています）。査読委員からの判定は、担当に送られ、担当が総合的に見て、そのまま、あるいは軽微な修正をしていただいた上で採録、採録条件をお伝えして改稿をお願いする、お返す、のいずれかに判定し（詳細は投稿規程をご覧ください）委員会で審議の上決定されます。

このように、論文誌編集委員会は、できる限りの公正、迅速、適正な査読を行うことによって、研究者ならびに教育現場の方々を含めた交流の仲立ちとなることを願っています。論文誌に、奮ってご投稿下さい！

（論文誌編集委員会委員、大会企画委員会委員長）

日本教育工学会 理事の担当

会長	清水康敬	(国立教育政策研究所)	
副会長	池田 央	(日本生涯学習総合研究所)	
	赤堀侃司	(東京工業大学)	
編集長	坂元 昂	(メディア教育開発センター)	
編集	赤堀侃司	(東京工業大学)	中山 実 (東京工業大学)
出版	伊藤紘二	(東京理科大学)	吉崎静夫 (日本女子大学)
ニューズレター	竹谷 誠	(拓殖大学)	
ホームページ	池田 満	(大阪大学)	
総務	南部昌敏	(上越教育大学)	横山節雄 (東京学芸大学)
	鈴木克明	(岩手県立大学)	
研究会	菅井勝雄	(大阪大学)	岡本敏雄 (電気通信大学)
	正司和彦	(兵庫教育大学)	
企画	永野和夫	(聖心女子大学)	山西潤一 (富山大学)
	大谷 尚	(名古屋大学)	
大会企画	吉田貞介	(金沢学院大学)	園屋高志 (鹿児島大学)
	前迫孝憲	(大阪大学)	
顕彰	村川雅弘	(鳴門教育大学)	
	美馬のゆり	(公立はこだて未来大学)	
会計	中村紘司	(北海道教育大学)	
選挙	横山節雄	(東京学芸大学)	中山 実 (東京工業大学)
渉外	佐伯 胖	(青山学院大学)	
監事	今榮國晴	(名古屋音楽大学)	水越敏行 (関西大学)

委員会名簿

編集委員会	企画委員会
<p>編集長 坂元 昂 (メディア教育開発センター) 委員長 赤堀 侃司 (東京工業大学) 副委員長 中山 実 (東京工業大学)</p> <p>委員 生田 孝至 (新潟大学) 池田 満 (大阪大学) 伊藤 紘二 (東京理科大学) 大河原 清 (岩手大学) 大谷 尚 (名古屋大学) 岡本 敏雄 (電気通信大学) 木原 俊行 (大阪市立大学) 向後 千春 (富山大学) 近藤 勲 (岡山大学) 正司 和彦 (兵庫教育大学) 菅井 勝雄 (大阪大学) 竹谷 誠 (拓殖大学) 田中 博之 (大阪教育大学) 永岡 慶三 (メディア教育開発センター) 永野 和男 (聖心女子大学) 野嶋 栄一郎 (早稲田大学) 美馬 のゆり (はこだて未来大学) 吉崎 静夫 (日本女子大学) 米澤 宣義 (工学院大学)</p>	<p>委員長 永野 和男 (聖心女子大学) 副委員長 山西 潤一 (富山大学) 大谷 尚 (名古屋大学)</p> <p>幹事 村川 雅弘 (鳴門教育大学) シンポジウム 小川 亮 (富山大学) (夏・冬)合宿</p> <p>委員 山内 祐平 (東京大学) シンポジウム 堀田 龍也 (静岡大学) シンポジウム 室田 真男 (東京工業大学) シンポジウム 赤倉 貴子 (東京理科大学) 夏の合宿 上田 信行 (甲南女子大学) 夏の合宿 木原 俊行 (大阪市立大学) 夏の合宿 原 克彦 (園田学園女子大学) 夏の合宿 五藤 博義 (㈱不思議ネットワーク) 秋の合宿 篠原 正典 (NTT東日本) 秋の合宿 浦野 弘 (秋田大学) 冬の合宿 東原 義訓 (信州大学) 冬の合宿 美馬 のゆり (はこだて未来大学) 冬の合宿</p>
	ニューズレター委員会
	<p>編集長 坂元 昂 (メディア教育開発センター) 委員長 竹谷 誠 (拓殖大学)</p> <p>委員 松居 辰則 (電気通信大学) 佐々木 整 (拓殖大学)</p>
研究委員会	大会企画委員会
<p>委員長 菅井 勝雄 (大阪大学) 副委員長 岡本 敏雄 (電気通信大学) 正司 和彦 (兵庫教育大学)</p> <p>委員 井上 久祥 (電気通信大学) 大谷 尚 (名古屋大学) 徳村 朝昭 ((財)日本国際協力センター) 西端 律子 (大阪大学) 林 徳治 (山口大学) 本間 明信 (宮城教育大学) 三尾 忠男 (早稲田大学) 三宅 正太郎 (大分県立芸術文化短期大学)</p> <p>事務局長 菊川 健 (メディア教育開発センター) 事務局 黒田 卓 (富山大学) 近藤 智嗣 (メディア教育開発センター)</p>	<p>委員長 伊藤 紘二 (東京理科大学) 副委員長 吉田 貞介 (金沢学院大学) 園屋 高志 (鹿児島大学)</p> <p>委員 赤倉 貴子 (東京理科大学) 浅田 匡 (神戸大学) 生田 孝至 (新潟大学) 大谷 尚 (名古屋大学) 加藤 浩 (メディア教育開発センター) 黒上 晴夫 (金沢大学) 黒田 卓 (富山大学) 五藤 博義 (㈱不思議ネットワーク) 近藤 勲 (岡山大学) 坂谷内 勝 (国立教育政策研) 正司 和彦 (兵庫教育大学) 平嶋 宗 (九州工業大学) 美馬 のゆり (はこだて未来大学) 室田 真男 (東京工業大学) 山内 祐平 (東京大学)</p>

第9期第1回理事会・評議委員会議事録

日 時：平成13年6月9日(土) 13:00～13:50

会 場：東京工業大学ケータリング食堂

出席者：(理事)水越敏行前会長、清水康敬会長、赤堀侃司・池田 央副会長、池田 満、伊藤紘二、大谷 尚、岡本敏雄、坂元 昂、正司和彦、菅井勝雄、鈴木克明、園屋高志、竹谷 誠、永野和男、中山 実、南部昌敏、前迫孝憲、村川雅弘、山西潤一、横山節雄、吉崎静夫、吉田貞介の各理事、小林事務局次長
(評議員)赤倉貴子、生田孝至、黒上晴夫、近藤 勲、澤本和子、永岡慶三、成田雅博、野嶋栄一郎、堀田龍也、本間明信、松居辰則、矢野米雄の各評議員

はじめに、清水康敬会長より、就任の挨拶があった。

1. 第8期第15回理事会議事録の承認

異議なくこれを承認した。

2. 会員の異動について

(1)池田幸夫君はじめ、計25名の入会(正会員13名、学生会員12名)を承認した。

(2)横山茂君はじめ、計6名(維持会員1社、正会員5名)の退会を承認した。

(3)中川斉史君はじめ、准会員から正会員へ2名、芥川元喜君はじめ、学生会員から准会員へ3名の種別変更を承認した。

(4)柿原浩君はじめ、2名が不明である旨の報告があった。

(5)正会員西端千賀子君の除籍を承認した。

(6)現在の会員数は、名誉会員2名、正会員1532名、准会員84名、学生会員135名、特殊会員6名、維持会員28名、合計1787名である旨の報告があった。

3. 理事の担当について

清水会長より、第9期理事の担当について提案があり、これを承認した。なお、大会企画委員会については、大会終了まで、伊藤紘二理事に委員長を御願ひすることになった。赤堀副会長、池田央副会長より就任の挨拶があった。

4. 今後の学会のあり方について

評議員の方々から、今後の学会のあり方について、次の意見が寄せられた。

- ・論文のカテゴリーと査読基準について議論して欲しい。
- ・学力問題を本工学会はどのように捉えるかについてのメッセージを発信することを期待したい。
- ・教育工学とは何かについて、分かりやすく学校現場の教師に知らせたい。

5. その他

- ・次回第9期第2回：平成13年7月7日(土) 15:00～17:00
日本教育工学振興会会議室(虎ノ門)
- ・最後に、水越前会長より挨拶があった。

以 上

新入会員

(2001年6月10日 ~ 7月7日)

■ 正会員	9名	堀 桂太郎	(国立明石工業高等	■ 学生会員	5名
大久保 政憲	(千葉工業大学)		専門学校)	伊藤 拓次郎	(岩手県立大学)
川本 佳代	(広島市立大学)	宮元 芳幸	(宮崎県西都市立	加登 好美	(関西大学)
中條 清美	(日本大学)		三財中学校)	中杉 啓秋	(東京大学大学院)
平井 尊士	(兵庫大学)	村井 万寿夫	(石川県教育センター)	Nasir Mahmood	(東京学芸大学)
古川 一博	(館岩村立館岩中学校)	山下 茂	(大分大学)	森田 和延	(富山大学)

学会関連ニュース

ISS-SCS 宇宙講座のお知らせ

文部科学省メディア教育開発センター(NIME)と宇宙開発事業団(NASDA)は、本年10月上旬に、国際宇宙ステーション(ISS)に長期滞在中の宇宙飛行士との交信を交えた特別講座を「大学間衛星通信ネットワーク」(SCS)を経由して、全国の大学等138会場と同時に実施します。講師は毛利衛宇宙飛行士等、参加費無料でどなたでも参加できます。会場一覧等の詳細は、<http://www.nime.ac.jp/space/> をご覧下さい。

「大学のグローバル化とIT(情報技術)」の開催のお知らせ

平成13年10月31日(水)、11月1日日(木)の両日、"How can IT Help Universities to Globalize?"「大学のグローバル化とIT(情報技術)」をテーマに、文部科学省との共催による国際シンポジウムを開催します。詳細は、<http://www.nime.ac.jp/conf2001/> をご覧下さい。

「シンポジウム～FDの運営を考える～」開催のお知らせ

平成13年9月15日(土・祝)13時30分～16時40分にメディア教育開発センター制作棟ホールにおいて、研修事業の一環として、掲題のシンポジウムを実施します。

詳細は、http://www.nime.ac.jp/KENSYU/kensyu_h13/k17/main_fl.html をご覧下さい。

学会日誌

- 8月25日(土) 研究会「ITを利用した教育実践と教師教育」 (東京学芸大学)
- 9月7日(金)～8日(土) 夏のセミナー (兵庫県氷上郡市島町)
- 11月2日(金) 秋の産学協同セミナー (アーバンネット大手町ビル18階)
- 11月3日(土) 研究会「ITと国際協力」 (琉球大学)
- 11月23日(金)～24日(土) 第17回全国大会 (鹿児島大学教育学部)
- 2002年
- 1月26日(土) 研究会「教育学における新しい研究方法論」 (名古屋大学)
- 3月2日(土) 研究会「授業研究と教育評価」* (宮城教育大学)

*入試日程などで変更される可能性があります。

ニューズレター制作 編集長:坂元 昂, 編集委員長:竹谷 誠, 委員:松居 辰則, 佐々木 整
拓殖大学工学部情報工学科 FAX: 0426 - 65 - 1519 E-mail: jet-news@cs.takushoku-u.ac.jp

日本教育工学会 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル)2階

社団法人 日本教育工学振興会内

電話 / FAX: 03-5251-2133 E-mail: jet-office@japet.or.jp 郵便振替 00180-0-111042